

2010年7月14日「スポーツ一流指導者育成 - 国事業委託機関に選定 筑波大 - 」

読売新聞茨城版 2010年7月15日を読む

スポーツ一流指導者育成 - 国事業委託機関に選定 筑波大 -

1. 五輪代表などトップクラス選手の指導者を育成する国の事業「スポーツキャリア大学院プログラム」の委託機関の一つに、筑波大が選ばれた。大学では今後、引退した一流選手に対する指導者養成プログラム開発や、コーチを目指す大学院生への支援などを通じて協力する。
2. 委託機関は筑波大をはじめ、仙台大（宮城県）、福島大（福島県）、早稲田大（東京都）、鹿屋体育大（鹿児島県）。いずれも体育系の専門教育課程があり、コーチ学のノウハウを蓄積している。
3. 国は2000年に策定した「スポーツ振興計画」で、日本選手の国際競技力を高める戦略の一環として、トップレベルのコーチの養成を掲げており、日本オリンピック委員会（JOC）によるコーチ学の講座などを設けてきた。
4. 今回の事業では、大学の協力で、従来のコーチ養成態勢を強化する。さらに引退したトップ選手に対し、大学院に進学して優れた指導者となるコースを設けるなど、新たな人材育成の方法も探る。筑波大では今後、大学院の人間総合科学研究科に、コーチ養成プログラムの専攻課程を設立、他大学との単位互換制度など枠組み作りも急ぐ。また、コーチ学が盛んな欧米などの最新事例を研究し、世界に通用するコーチ養成ができる体制を整えていく。
5. 筑波大では「トップアスリートは、自分の競技に集中するだけに、引退後の職業的進路に不安がある。一方、彼らの得た競技経験やノウハウは次世代に伝えるべきものであり、ぜひ国レベルの指導者として残ることができる道を作りたい」としている。

[コメント]

この記事のように、退職した一流の方々のお借りしてこれからの人々を育成するという考えは素晴らしい考え方だと思う。

例えば、経営者の育成でも、ほぼ引退しつつある一流の経営者の力をお借りして、これからの経営者を育成したら素晴らしい結果が出ること間違いなしだ。

但し、問題はどのように指導するかだ。その点、この記事は参考になる。この記事を参考にすれば次のようなプログラムが考えられる。大いに検討したい。